



# 株式会社猪股牧場



## 1 現在の活動状況等

### (1) 経営理念等

- 【感謝】牛へ感謝、支えてくれる人たちに感謝、共に働く仲間へ感謝、毎日使う道具に感謝します。
- 【成長】牛と共に日々成長、技術的成長、精神的に成長して地域に必要とされる人材、会社に成長します。

### (2) 生産技術の特徴

- 乳用牛群検定事業と繁殖検診の活用により、個体ごとの生産能力・繁殖ステージの確認と飼養管理の改善を行っている。
- また、ICT機器を活用し、牛の行動モニタリング(U-motion)や精密飼養管理システム(Vmap)により1頭ごとの牛の状態をパソコン等で随時把握している。
- さらに搾乳ユニット自動搬送装置(キャリロボ)や自動給餌器(マックスフィーダー)により作業の効率化、省力化を図っている。

### (3) 販売面の特徴

- 生乳は、全量を宮城県酪農農業協同組合へ出荷し、肉用子牛は、全頭を家畜市場に出荷している。

### (4) 経営組織の特徴

- 家族経営からの1戸1法人であり、各種生産情報を基に経営方針や作業計画を代表が中心となって作成し、計画的な生産管理を実施している。

### (5) 労務管理の特徴

- 酪農ヘルパーの利用と会社カレンダーにより、社員全員が定期的に休日を確保している。
- 経営相談所の指導を受けて、就業規則を再整備した。

### (6) 経営管理の特徴

- 乳用牛群検定事業と繁殖検診の結果を活用し、獣医師や飼料会社の指導を受け、飼養管理に生かしている。
- 搾乳牛舎、育成牛舎、搾乳前期、後期、分娩牛舎をステージ毎に分けて観察、管理しやすくしている。
- 自給飼料生産は近隣の酪農家と2戸共同で行い、事業を活用して積極的に機械装置を導入して、作業力向上を図っている。
- 事務作業全般は専任者を置き、会計処理はパソコンを活用している。
- 資金繰りや設備投資などを税理士に相談して、適正な経営管理に努めている。

### (7) その他、特筆すべき事項

- 地域社会等との連携のひとつとして、町と連携し、インターンの受け入れを行っている。

## 2 法人設立までの変遷(取り組み経過等)

### (1) 法人設立までの動機、きっかけ

- 家族の体調不良や妻の出産が重なったことで、労働力不足を痛感した。このことがきっかけとなり、労働力を確保することで、家族の健康、プライベートの充実、時間や身体、経済的にゆとりある生活、20年後の安定した経営を思い描き、法人化を決意した。

### (2) 法人化に至る経過等

- 酪農という職業がら、法人化にあたり、司法書士や税理士などの専門家を探すことに時間がかかったが、先輩農家や農業改良普及センターのアドバイスにより、平成29年1月法人設立。

## 経営のプロフィール

### 経営概要

- ・乳用牛 経産牛116頭 育成牛60頭
- ・肉用牛 繁殖黒毛和牛12頭
- ・牧草地 38ha

### 主な施設・機械の保有

- ・搾乳牛舎2棟 ・乾乳、育成舎1棟 ・哺育舎1棟
- ・分娩牛舎1棟
- ・キャリロボ4台 ・マックスフィーダー1台
- ・U-motion, Vmap

### 構成員等

- 構成員：(役員)取締役等2名
- 従業員：(常時雇用)6名 (アルバイト)1名

### 法人設立年月日

平成29年1月4日(登記日)

### 認定農業者認定年月日

令和4年2月24日

### 資本金

600万円

### 販売額等

販売額：1億4,800万円(令和2年度)

### 役員名

代表取締役社長：猪股 聡士  
取締役：猪股 英雄

### 補助事業・制度資金活用実績

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(機械導入)  
畜産・酪農生産力強化対策事業

### (3) 法人化後の評価(良かった点等)

- 家庭と経営の分離により、休日が増え、身体的にも精神的にもゆとりができた。
- 法人化により社会保険・雇用保険等の整備ができ、雇用に繋がっている。
- 税理士に経理を見てもらうようになり、アドバイスが心強い。

## 3 今後、将来に向けてのビジョン等(現時点)

### (1) 将来ビジョンと経営戦略等

- 規模を拡大し、生乳生産量を増やす。
- 雌雄判別精液による後継牛の確保。
- 受精卵移植による付加価値の高い黒毛和牛の生産を増やす。
- 作業効率の良い飼養環境、福利厚生強化など、人と牛が健やかに経済活動を行えるようにして、「この牧場で働きたい」と思える会社へ成長する。

### (2) 達成へ向けた課題及び取り組み状況

- 経営相談所の専門家派遣で経営診断や労務管理の指導を受けた。これらを経営管理や改善に活かし、信用力向上にも繋げていきたい。
- 生産現場では、人がやるべきことと機械で行うことを明確にする。
- 社員全員が生産状況の把握や改善点について、共通の認識を持つために現在、作業マニュアルを作成中である。また、ミーティングや勉強会を定期開催したい。

(調査 大崎農業改良普及センター)

## 略図



## 株式会社猪股牧場

〒981-4415 加美郡加美町米泉字中野123  
TEL 0229-63-6726 FAX 0229-63-6726  
Eメール inomatafarm@gmail.com

## 視察受入条件

### 受入可

受入条件 視察目的を明確にしたうえで、普及センターを通じて御相談ください。